

---

# 好きなアニメ・ゲームキャラクターで逃走中

ソニック

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

好きなアニメ・ゲームキャラクターで逃走中

### 【Zコード】

N4244Y

### 【作者名】

ソニック

### 【あらすじ】

舞台はあの⼈氣テーマパークユニバーサルスタジオジャパン。ユニバーサルスタジオでこの⼩説を書いた作者が好きなアニメとゲームのキャラが

逃⾛中に参加する、そして誰が逃げ切れるのか。



## 逃走者紹介（前書き）

逃走者の紹介です

## 逃走者紹介

スマブラX ルイージ ピーチ クッパ ワリオ リンク トゥーンリンク ドンキーコング ディディーコング サムス・アラン フォックス ファルコ ウルフ ロボット ゲーム&ウォッチ ナナ ポポ マルス アイク ピカチュウ ルカリオ カービィ ピット メタナイト ネス リュカ

スネーク

ソニック・ザ・ヘッジホッグ

ソニック

テイルズ

ナックルズ

エミー

シャドウ

シルバー

エスピオ

ベクター

ロックマンX

エックス

ゼロ

アクセル

ドラゴンボール

孫悟空

ベジータ

トランクス（未来）

ピッコロ

孫悟飯

バー・ダック

ブロリー

パラガス

ぶよぶよ！！（20周年version）

アルル・ナジヤ

アミティ

あんどうりんご

ラフィーナ

アコール先生

シグ

クルーケ

フェーリ

レムレス

ささきまぐる

ドラゴケンタウロス

サタン

ルル

ウイッチ

シェゾ・ウイグイイ

リデル

新機動戦記ガンダムW（TV版）

ヒイロ・ヨイ

デュオ・マックスウェル

トロワ・バートン

カトル・ラバーバ・ウイナー

張五飛

絶体絶命でんじやらすじーさん

じーさん

孫

校長

ゲベ（8頭身）

ボボボー・ボボボ

ボボボ

首領パツチ

ところ天の助

デッドライジング

フランク・ウエスト

## 逃走者紹介（後書き）

次回本編スタート。

## ゲームスタート（前書き）

わあこよこよ本編です。

## ゲームスタート

午後5時00分

ユニバーサルスタジオジャパン

そこを貸切でとあるゲームが開始したその名も

逃走中

ここユニバーサルスタジオで150分間逃走を行う、

逃げ切れば賞金が貰える、ただしハンターにつかまれば賞金は0となる。

ハンターの人数は4体。

そして今参加者は4体のハンターが封印しているハンターボックスの前にいる、そしてハンターボックスの前にボタンがある。

そのボタンは押した1分半後にハンターが放出するボタンである。

そして今そのボタンを押す代表者がランダムで決まつた、その代表者は。

デュオ「へつ？俺。」

デュオだ

そしてデュオはハンターボックスの前にいてそのボタンを押す

デュオ「よーーし、じゃあ押すぜーー！」

デュオの声と共に他の逃走者は逃げる準備をしていた。

ポン、

デュオがボタンを押したと同時に全逃走者はハンター・ボックスから走つて逃げた。

なおハンターはさつき行つたように押して1分半後に放出する。

逃走者はそれぞれに散つた。

デュオ「なんで俺を代表として選んだんだよ。」

何で自分を代表にしたかと思つてゐるガンダムのパイロット。

そこへ

りん♂」「あれ？ テュオ君じゃない。」

「デュオ「よおりん♂」か、偶然に会つたな。」

「りん♂」「本当偶然だね。」

「デュオ「ホントだな。」

「りん♂」「偶然会つたんだし一緒に行動しない？」

「デュオ「ん一緒にか、ああ別にいいぜ。」

「りん♂」「ありがとうデュオ君。」

「デュオ、りん♂と合流

ソニック「一緒に頑張ろつぜアミティ。」

アミティ「うん」

この2人はすこい仲良しでやつぱり一緒に行動している

悟空「へへ、ワクワクすっぞ」

逃走中でワクワクしている最強の男

そして

プシュー

ドンッ！！

ボタンを押してから1分半が立ち4体のが解き放たれた。

4体のハンターはすぐさま逃走者確保へと向かう

プルルル

ヒイロ「メールか。」

エックス「ボタンを押してから1分半が立ち・・・」

アイク「4体のハンターが解き放たれた・・・」

孫「これより逃走中を開始する。」

ゲームスタート



## ゲームスタート（後書き）

感想をお願いします。

いよいよ始まつた逃走中、誰が逃げ切れるのか。

遂に始まつた逃走中

72名の逃走者の中で逃げ切れる者は誰だ。

ゼロ「ついに始まつたか。」

ベジータ「カカロツトより長く生き残つてやる。」

逃走中でもライバル視を持つサイヤ人の王子

天の助「どうかに隠れねえと。」

隠れ場所を探すところてん。

天の助「お、いい隠れ場所があつたぞ。」

そして見つけた

アクセル「せつかく逃走中に参加したんだからせめて長く生き残ら  
なきやね。」

果たして彼は長く生き残れるだろ？

フランク「カメラマンの底力見せてやるぜ。」

自信満々の超人カメラマンその常人離れした体力と強靭的な精神力  
卓越したサバイバル術によつてゾンビの住みかとなつたショッピングモールから無事生還を果たしたその能力は逃走中ではどう活躍するのか。

天の助「うわ、ハンターが居るよ。」

天の助が隠れているとこの近くにハンターがいた

天の助「よし、通り過ぎたな。」

ハンターが通り過ぎたと思い移動をする

そして

ハンター「...」

見つかった

天の助「やあああああああああああああああ、早速追いかけて  
来た――」

「――」

天の助はスピードを上げて逃げるがハンターの足は早いそして距離は縮まつていくそして

天の助「ぎやああああああああああああああ！」

ポン

ところ天の助確保残り71人

天の助「ガ――――ン」

プルルルルル

トロワ「確保情報・・・」

シャドウ「ジュラシックパーク付近で・・・」

ドリカ「といふ天の助確保。」

ボーボボ「やつぱあいつダメ野郎だな。」

アミティ「早くも1人捕まっちゃったね。」

ソニック「ああ、しかも最初はやっぱあいつか。」

デュオ「ええ、もう早くも1人捕まっちゃったのかよ。」

りんご「うん、天の助君が確保されたみたいよ。」

デュオ「あいつか、最初に確保されそうな感じしてたしな。」

続  
<

part - 1 (後書き)

次回最初のリッシュョンが開始する。

## part - 2 (前書き)

最初の「シラクサン」が始まる

数分後

突如エリア内に映し出された7つのハンターマーク

プルルルル

ワリオ「お、メールだ。」

ファルコ「今度はなんだ。」

ヒヤロ「ミッション、ミッションが来たか・・」

ナックルズ「エリア内に的巨大ハンターマークが映し出された・・・」

「

アクセル「残り130分までにマークを消さなければ・・・」

ルル「残ったハンターマークと同じ数のハンターを放出する・・・」

「

フランク「マークは全てで7つ・・・」

カトル「マークは1から7までナンバリングされており・・・」

ルイージ「順番に消さなければならぬい急ぎたまえ、ええー? てことは7体増えれば合計11体に! !」

ミッション

ハンターマークを消去せよ

これより130分までに7つのハンターマークを消さなければ残った数と同じハンターが放出される

ただしハンターマークを消すには1から7まで表示されているマー

クの切り替えレバーを下ろさなければならぬ

ハンターマークを消さなければ最大7体のハンターが放出される

ヒイロ「任務了解。」

ゼロ「勿論行くぜーーー！」

シルバー「よし、行くかーーー！」

フランク「行くぜーーー！」

ルイージ「行ーーーう。」

ワリオ「行かねえよ。」

バラガス「勿論私はいかない。」

行くか行かないかは自由だ。

デュオ「どうするつーーーはせつば行くか。」

りん」「うん、勿論行つた方が・・・でハンターが居るよーー！」

デュオ「マジかよーー！」

2人はいち早くハンターを見つけ移動をしただが

ハンター「ーーー」

見つかった

デュオ「ヤベヒ見つかつちまつた、こひは|手に分かれるぞーー！」

りん」「うんーーー」

そして一歩に分かれた、そしてハンターが標的にしたのは

りん」「嘘！こっちに狙つてきたーーー！」

りんのだ

このままではりんは捕まつてしまつ

と、その時

? ? ? 「 」 じつちだ、 じつか隠れろ。」

「なん？」

突如隠れ場所から声が聞こえりんじは口惑つたが声に従いりんじは隠れた

ハンターからの視界から見失つたようだ

そしてりんごを助けた声の人物は

エックス「無事で良かった。」

エックスだ

りんご」「ハックス！？」じゃあさっきの声はハックスだったの。」

エックス「ああ、君がハンターに追いかけられたのを見かけたので声を出して助け出したってことになるな。」

りんご」「でもどうしてそんなことを、下手をすればエックスまで捕まるといだつたんだよ。」

エックス「俺は誰かを助けるためならハンターに見つかるのを承知で君を助けたんだ。」

りんご」「さうか、ありがとうハックス。」

エックス「とりあえず一緒に行動しよう。」

りんご」「うん。」

りんご、ハックスと合流

りんご」「それと友達になってくれる?」

エックス「ああ、喜んで。」

りんご「ありがとう。」

そしてりんごはエックスと友達になった

りんご「ねえ?あれハンターマークじゃない。」

エックス「ん、ほんとだしかもナンバーリングは1だ。」

なんと2人は偶然ハンターマークナンバーリング1の停止レバー見つけた

エックス「よし引くぞせーの」

ガシャン

ナンバーリング1停止

残り6個

りんご「やったね!」

エックス「ああ。」

残り6個停止出来るか

プルルルルルルル

五飛「メールか、ハンターマークナンバリング1停止、早いな。」

マルス「て事は、残り6個か。」

ナンバリング停止はメールで知らされる

マリオ「よーし俺もミッションで活躍してやるぜーーー。」

やる気満々のスーパースター

だが彼の後ろの近くに、ハンターが

まだ彼は後ろにいることを気づいていないそして、

ハンター「！」

見つかった

マリオ「ん、うわヤベエハンターだー！」

## マリオが逃げた先に

じーさん「あ、ハンターに追われてる。」

じーさんがいた、そしてじーさんは壁に隠れた。

「マリオ、ヤベホー！ 行き止まりだーー！」

マリオが逃げた先は行き止まりだ。

ポン

マリオ確保残り70人

マリオ「最悪だ」

ゲーム界のスターここに散る

プルルルルル

カトル「確保情報だ」

アコール先生「ジュラシックパーク付近にて・・・」

エスピオ「マリオ確保。」

ルイージ「ええ!? 兄さんが!!」

「マジで…マリオが！」

トランクス「まだ驚きが隠せない、あの人気が早くも捕まるなんて。

全員驚きが隠せないようだ

ラフィーナ「あいうテュオさんじゃない、ビッグしたんですのそんなに  
息切らして。」

デュオ「ラフィーナか、さつきハンターに追われて全力で逃げたか  
らギエヨ、すっげえ疲れてんだよゼエ。」

ラフィーナ「そうだったんですね、所でシッシュコンに行く所なん  
すけど一緒行きません?」

デュオ「ああ、いいぜ俺もシッシュコンに行くつもつだつたからな。

デュオ、ラフィーナと合流

アミティ「あ、あつたハンターマークナンバリングを見つけたよ。

「

ソニック「よっしゃ、でかしたぜアミティ！」

2人はマークナンバーリング2を見つけた

ソニック「これが停止レバーか、良し引くぜ、セーの」

ガシャン

ナンバーリング2停止、残り5個

ソニックアミティ「「イエーイ」」

2人は息動向のハイタッチをした

part - 3 (後書き)

残りの5つも停止出来るか

part - 4 (前書き)

ハンターマーク残り5個

プルルルルルル

フォックス「ハンターマークナンバリング2停止残り5個。」

アイク「意外と早いな。」

ウルフ「だったら次消すのはナンバリング3か。」

マークは番号順に消さなければならぬ

レムレス「あれ、君はバーダックじゃないか。」

バーダック「おひ、レムレスじゃねえか、どうした。」

レムレス「ハンターマークを消しに行くとこだけど君も行くのかい。

「

バーダック「当たり前だろハンターが増えちまつたら厄介だからよ。

「

レムレス「じゃあ、僕が3番を消すから君は4番を消してくれないかな?。」

バーダック「お前が3番で俺が4番を消すか、よっしゃ引き受けたぜ。」

レムレス「ありがと。」

そして2人の後ろにハンターが

だが2人は気づいていない

そして

ハンター「！！」

見つかった

バーダック「あん？、おいヤベエぞハンターが来た！！」

レムレス「え！？嘘……」

そして2人は~~氣づき~~一~~手~~に分かれて逃げた

そしてハンターの標的は・・・

バーダック「おこない、マジかよ！？」

バーダックだ

バーダック「クソッタレが、このまま捕まつてたまるかよーー！」

バーダックはスピードを上げ建物を利用して逃げた

ハンター「・・・」

うまく逃げ切れたようだ

バーダック「へッ、ぞまあ見やがれ」

レムレス「ふう、危なかつた、ん、あれはナンバリング3。」

レムレスは偶然ナンバリング3停止レバーを見つけた

レムレス「ラッキー、じゃあ早速レバーを引くか、せーの」

ガシャン

ハンターマークナンバリング3停止残り4個

プルルルルルル

アクセル「なになに、ナンバリング3停止残り4個」

ドリロ「え? もう残り4個まで行ったの早っ。」

エックス「もう少しも停止か。」

りんご」「この調子だとミッションクリアになりそうだね、ん? ねえ  
エックス。」

エックス「どうした？りんご。」

りんご「あれ、パラガスじゃない？」

2人はパラガスを見かけた

パラガス「良し、ここなら見つからないな」

エックス「おい。」

パラガス「うお！？なんだエックスとりんごか。」

りんご「何やつてるの？。」

パラガス「実は隠れ場所を探していたのだ」

りんご「へえ、そなんだ。」

エックス「なあ、ミッションは行かないのか？」

バラガス「行かん」

כט' ינואר 1948.

パラガス「だつて、怖いんだもん。」

## part - 4 (後書き)

感想をお願いします

part・5 (前書き)

ハンターマーク残り4個

part - 5

現在ハンターマーク残り4個

時間残り137分

130分経過まで残り7分前

メタナイト「ハンター放出まで残り7分、そしてハンターマークは  
残り4個か」

時間とマークの残りを確認するメタナイト

そして彼の後ろにハンターが

まだメタナイトは気づいていない

# ハンター「！！」

# 見つかった

メタナイト「ん、しまった、まさか後ろにいたとは。」

メタナイトはハンターに気づき逃げるが短距離で見つかってしまい  
距離が縮まっていく、そして

メタナイト「うわああああああああああ――――――――」

ポン

メタナイト確保残り69人

メタナイト「不覚・・」

プルルルル

ワリオ「お、メールだ・・」

ゼロ「バック・トゥ・ザ・フューチャー至近にて・・・」

カービィ「メタナイト確保、え!/?嘘、メタナイトが。」

ゼロ「次に消す」ことが出来るのはナンバリング4か。」

急いでナンバリング4を探しているゼロ

その頃

エックス「チヨ、行きたくないもんて、何子供みたいな言い方して  
んだよ氣落ちわりいな！！」

「りんご」「いい大人で親がそんなこと言つてビリするのよ。」

パラガス「だつて、迂闊に動いたらハンターに見つかっただって  
うし。」

エックス「だからって、んな情けねえ言い方するなーー！」

情けないことを言つパラガスを怒鳴るエックス

そしてりんごはエックスの肩を叩いた

りんご「エックス、もう行こう。んな言い合いしたつて拉致がない  
よ。」

エックス「そうだな、じゃあなパラガス。」

そして2人はパラガスと別れた

メタナイト「くそー」

牢獄

メタナイトは捨て台詞を吐きながら牢獄に入った

マリオ「お前も捕まつたのか。」

メタナイト「そうこうマリオこそ以外だまさかお前が早く捕まつてしまつと。」

マリオ「逃げれそりだつたんだけど行き止まりで捕まつたんだよ。」

天の助「俺だつて最初に捕まつたんだぜ悔しい。」

## part - 5 (後書き)

感想をお願いします

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4244y/>

好きなアニメ・ゲームキャラクターで逃走中

2011年11月23日17時53分発行